



8月の衛研検査情報 ～概要版～

横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査などの結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。

横浜市における2019/2020シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析

患者数のピークは12月第51週と例年より1か月早く、過去10年間で最も少ない規模の流行でした。新たに出現した新型コロナウイルスの流行状況を把握するためにも、インフルエンザや他の呼吸器ウイルスを鑑別する必要があり、ウイルスサーベイランスの重要性は高まっています。

主な結果 全調査の分離・検出数の割合はAH1pdm09ウイルスが主流で81.6%、ビクトリア系統のB型ウイルス14.0%、AH3型ウイルス4.4%でした。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) 感染症のまとめ -2019年分離株について-

CREは、腸内細菌科の細菌による感染症に使用されるβ-ラクタム系(ペニシリン系など)の抗菌薬がほとんど効かない薬剤耐性菌です。その耐性遺伝子がプラスミド上に存在し、異なる菌種に拡散していくことなどから、国際的にも人類にとって脅威になると考えられています。

主な結果 公衆衛生上特に問題となるカルバペナーゼ産生腸内細菌科細菌(CPE)については、分離数の多い*Klebsiella aerogenes* は全株がCPEではなく、*Enterobacter cloacae* complex は1/3がCPEでした。一方 *Klebsiella pneumoniae*、*Escherichia coli*、*Klebsiella oxytoca* は分離数は少ないもののCPEである割合が多く、分離された際は注意すべき菌種であると思われました。また、いわゆる海外由来の遺伝子型がこれまでより多く分離され、KPC-2型、OXA-244型は2016年に検査を開始してから市内で初めて検出されました。

農産物の残留農薬検査結果(令和2年6月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

主な結果 こまつな(5検体)、トマト(4検体)、かぶの根、カリフラワー、キャベツ、きゅうり及びにんじん(各1検体)の計14検体について検査を行いました。こまつな4検体、トマト3検体及びきゅうり1検体から延べ12項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。

横浜市衛生研究所WEBページ情報

感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報などを提供しています。ここではアクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説します。



<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/geppo/inspection-inf.html>

主な結果 令和2年7月は、感染症情報センタートップページ、ぎょう虫症、死亡率・致死率・死亡割合、B群レンサ球菌感染症、大麻(マリファナ)、トキソプラズマ症、フルーツジュースと下痢などに関するページへのアクセスが多くみられました。総件数は361,127件でした。